

京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会（第二回） 議事概要

- 日時：平成 31 年 2 月 5 日(火) 10 時 00 分～12 時 00 分
- 場所：京都ガーデンパレス（京都市上京区）
- 議事
 - 1 前回委員会の概要と補足説明
 - 2 事前放流量充実化
 - 3 下流区間の改修進捗状況に応じた効果的なダム操作
 - 4 情報伝達の有効化現状把握
- 主な意見
 - ・ 資料 2-7 を確認すると平成 16 年台風 23 号は大事に至る寸前で雨が止んで幸いだった。今回はたまたま雨が止み大惨事が回避できたが、このような「ヒヤリ・ハット」に基づき危機意識を高めることが災害に対処する上で重要な点ではないか。予測よりも多い降雨が起こり得ると認識したうえで放流量など、諸々の数字を決定するべきだと考える。
 - ・ 事前放流の実施判断基準について、台風の位置（緯度・経度）や進路も含めて検討すれば精度が向上するのではないか。
 - ・ 事前放流目標水位を見直す効果として、平成 25 年台風 18 号のケースで異常洪水時防災操作が回避できることのほかに、下流の水位低下量を示せないか。
 - ・ 事前放流による下流河川の水位上昇速度の変化を示すこと。
- 主な質疑
 - 1. 前回委員会の概要と補足説明
 - ・ 資料-2 の p.2 の前回委員会の主な意見の内、補足説明が無い項目については、次回、説明いただけるのか。
 - 本日の説明でも触れるが、今後、河川管理者等と調整を進めたい。
 - 2. 事前放流の充実化
 - ・ 平成 29 年台風 21 号では、発電だけで水位を下げるのに 12 時間、ゲート放流も行うとどの程度の放流時間の短縮が可能になるか。
 - 降雨が無い状況であれば、157m から 150m まで最速で約 6 時間、155m から 150m まで約 4 時間で水位低下可能。
 - ・ ダム貯水位が低い（貯水位 150m～155m）範囲の放流能力をチェックする必要がある。
 - 計算上は貯水位 150m で約 420m³/s の放流量力がある。
 - ・ 事前放流の目標水位 150m の根拠を知りたい。
 - 発電の放流管の中心高が 145m、管径や管内への空気混入防止などから設定した暫定の数値。実証実験で影響を確認し、目標水位を設定したい。

- ・ 堆積土砂の露出に伴う濁水発生等の下流への影響を示していただきたい。過去に大野ダムを水位を下げて濁水が発生したという話を聞いたことがある。
 - 過去の修繕工事で水位を 150m よりさらに下げたことがある。
 - 土質調査の実施や濁度の監視（濁度計設置）、漁協への説明等を行いたい。

- ・ 今年の 7 月豪雨では 1000 人近くの方が避難しており、住民の方は由良川本川の水位を意識して避難行動を起こしている。異常洪水時防災操作時による由良川の水位変化（どの地点で、いつ、どの程度水位が上昇するか）について、シミュレーション結果があれば、情報提供いただきたい。
 - 河川管理者とダム管理者で連携して、水位の情報を提供したい。支川流入の予測もあってリアルタイムで予測するのは困難。

3. 下流区間の改修進捗状況に応じた効果的なダム操作

- ・ 洪水調節開始流量を上げるのではなく、下げることは考えられていないか。早く調整し始めて、運用を考えた方がいいのではないか。途中から流量を変更することは可能か。
 - 操作規則に基づく操作が原則、全国的な傾向としては大きな雨に備えて容量を温存する傾向にある。四国のダムでは中小洪水に効くようなダム操作に変更したことが、異常降水時防水操作に至った原因ともいわれている。

- ・ ダムの一番の治水目的は洪水のピークカット。初期貯留を減らし、より大きな洪水に対応することが大きな流れ。
 - ダムの最大放流量を減らしても下流水位のピークが高くなるケースがある。下流の水位は残流域からの流入や流出時間の遅れ、雨の降り方の影響を受けるので、この波形だけで効果を判断することはできない。さらに多くの洪水や雨の降り方、流出パターンを検討し、大野ダムとしてどのような操作が適切か判断されたい。

4. 情報伝達の有効化（特に異常洪水時防災操作が予測されたとき）

- ・ 異常洪水時防災操作などの難解な用語に用語解説を加えること。
 - 次回までに資料を充実したい。

① 危険度レベルの表示の明確化

- ・ 予測段階で危険度レベルを上げて提示することが住民の避難行動につながることから、その点を意識して発信されたい。
 - 次回までに資料を充実したい。

② 放流連絡様式の改良

- ・ ダム管理者の流入量予測と河川管理者の河川水位予測は、発信する内容が放流量と水位であり目的も異なる。予測水位をダム管理者が出すのであれば事前に調整が必要。
 - 府で水位予測は困難。国の水位予測に反映できる情報提供を行えるよう調整していきたい。
- ・ ダム放流量だけでなく河川の水位にイメージしやすいような工夫をお願いしたい。
 - 放流連絡時点の河川水位を記入することや、水位予測が反映できるよう調整していきたい。

④ ホームページの内容改善

- ・ 具体的なホームページ変更レイアウト案（カラー表示のイメージ等）を示す。
→次回検討会でレイアウト案を示したい。

⑤ ダム見学会などによる広報活動の推進

- ・ 関係者や住民に情報を伝えていく仕組み、機会について、ダム管理者だけでなく、市町と連携した取組を検討いただきたい。
→これまで、関係自治体向けのダム見学会でダムの役割について説明してきたが、住民向けとなると依頼を受けて個別に対応してきた、関係自治体とやり方を議論したい。